



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



2022年度事業計画と予算を承認！

4月29日、MJETの2022年度年次総会は、「緊急事態宣言」により、ZOOM方式で開催されました。総会には正会員24名中、本人出席7名、委任状4名、計11名の出席があり、定款に定める構成員の4分の1以上の出席を得たことにより、総会は成立したことが確認されました。2021年度の事業報告と決算報告が承認され、引き続き、2022年度の事業計画と予算計画案が提出され、承認されました。

2022年度事業計画は、コロナ感染症の収束時期とクーデター後の政治社会の安定時期にかかっています。この先行きが全く不確実な現状においては、年度内にこれらが収束することが難しいという想定で、計画が作成されました。要点は以下の通りです。

1. 役員

2022年度は改選期に当たり、前年度に引き続き、藤村会長（事務局長を兼務）、菊池副会長、神田理事、金丸理事、藤本監事が務めることが合意された。

2. 国際開発フィールドワーク支援事業

植林ツアーの見込みがないことから「基礎的なミャンマー事情についての勉強会」を開催することとする。勉強会は、ミャンマーでのフィールドワークに関心を持つ学生を対象とし、MJET学生部以外の学生にも参加募集して、参加を受け入れる。

3. 植林ツアー

コロナ危機の状況が改善しないため、今年度は中止とし、状況が改善すればいつでも計画打ち合わせ調査を実施する。

4. 日本のエコツーリズム事業

昨年同様、日本国内のエコツーリズム活動を視察して、学習することとし、「軽井沢町エコツーリズム推進協議会」やNPOの「赤城自然塾」の活動に参加する。もし、(一社)日本ミャンマー友好協会の会員が栃木や群馬にいれば、「ポパ山麓のフラワーパーク構想」に関し、それらの人達の考えも拝聴する。日本エコツーリズム協会を通じて、群馬、長野県付近のエコツーリズム活動を視察し、今後のバガン・ポパ地域のエコツーリズム開発の参考とする。

5. 農村開発事業

今年度は実施しない。

6. ミャンマー青少年支援事業

MJYAが主催する日本語教室もコロナのために、中止されており、坂口基金による奨学金事業も実施しない。2019年度の奨学金250,000円（約2,200ドル）を授与できるかどうかは、来年3月頃の現地状況による。

7. 2022年度予算

坂口氏からの今年度寄付金を辞退する。新年度の一般会計は、経常収入を1,446,336円、経常支出を1,219,017円を見込み、差し引き227,319

ミャンマーに関する最近のニュース

最近のミャンマー情勢は、日々悪化傾向にあるようです。政治、社会、経済事情につき、いろいろな通信社や新聞等の情報を整理してみました。

政治情勢

- ASEAN 特使(カンボジアのソレク外相)が3月と6月にミャンマーを訪問し、ミン・アウン・フライン総司令官にも会って、ASEANと合意した5項目の順守を迫りました。しかしながら、暴力の即時停止を含めて、一つも実行されておらず、特に民主派の逮捕者4名を死刑にしたことについて、ASEAN諸国は深く失望し、今後の正式会合にミャンマーを参加させないと、態度を硬化させています。同特使は9月に3回目の訪問を予定しています。
- 軍評議会は7月31日に2回目となる延長を決定しました。2008年憲法の規定により軍評議会による統治は2023年1月31日に終了し、その後6か月以内に総選挙が行われ、選挙に勝利した政党に政権が委譲されることとなります。
- 「連邦記念日」翌日の2月13日、軍評議会傘下の国民団結・平和実現委員会と少数民族武装勢力9団体との協議が行われましたが、成果はまったくなかったとのこと。
- 国軍が設置した民兵組織の「ピューソーティー」と国民統一政府(MUG)の戦闘部隊である「人民防衛隊(PDF)」との間で、戦闘が激化しているようです。

社会情勢

- ミャンマーの国内避難民が120万人を超えたと「国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)」は6月に発表しました。
- 「国民統一政府」によると、これまでに約7000人の警察がCDMに参加し、彼らを中心に「市民警察隊」を設立し、一部の地域ではすでに活動しているとのこと。

経済情勢

- 世界銀行は1月26日、2021年度(2021年10月1日から2022年9月30日まで)のミャンマーの国内総生産(GDP)成長率が1%に留まるとの予測を発表しました。
- 日本政府は2月8日、ミャンマーに対して追加で1,850万米ドル(約21億円)分の人道支援を行うと発表しました。ミャンマー経済が落ち込み、市民の生活が不安定になっているため、食料や生活物資、医療機器などを無償で支援するもので、主にラカイン、カチン、チン、シャンの各州およびヤンゴン管区の市民を対象。



MJET 勉強会を開催

今年度は、植林ツアーが困難なことから、毎月1回の勉強会を開催することとし、7月から8月までの間、2回の勉強会を開催しましたので、それらの概要を報告します。

第一回

日時：7月23日（土）午後8時～10時

場所：ZOOM

参加者：11名（内学生4名）

プログラム

20:00-20:10 開会と参加者紹介

20:10-20:45 「ミャンマー教育の現状」
ティティレイ城西大学教授

20:45-21:50 質疑応答と自由討議

勉強会では、ミャンマーの政治社会の現状に鑑みて、教育環境が非常に悪化しており、ミャンマーの将来を背負う若者たちの教育が著しく損なわれている状況を残念に思うと述べられた。討論の要点は以下のとおり。

「ミャンマー教育の現状」

- ミャンマーには、文部省以外の省庁が大学を所管しており、合計51の大学が存在する。高等教育への進学率は14.8%となっている。
- 2012年から、教育制度の改革が開始され、それまで小中高が5-3-3年の計11年であったものを、先進諸国と同じ6-3-3年、計12年の通学制度に改めることになった。
- 更にいわゆる「暗記教育」といわれるような、教師や教科書に書かれていることを、ひたすら暗記するのではなく、生徒たちが、お互いに疑問をぶつけ、話しあうという生徒が自ら考える「双方向教育」の導入を目指し、「教育で国を豊かに先進国へ」というスローガンで改革を進めている。
- しかしながら、2019年3月以降、コロナ感染症が流行してきたため、学校が閉鎖され、この時実施されていた、高等学校の卒業試験も残り2科目が受験できずに、終了してしまっただ。
- 2021年2月のクーデターにより、学校の閉鎖と回復が繰り返されたが、現状、約30%が戻っている。
- このような状況下では、若者が教育を受ける方法としては以下のような手段によっている：
 - * 海外留学
 - * オンライン
 - * 民間塾
 - * 寺子屋
 - * 公共機関
- 大都市は選択肢があるが、地方の教育は厳しい。



第二回

日時：8月20日（日）午後8時～10時

場所：ZOOM

参加者：19名（内学生2名）

プログラム

20:00-20:30 開会とゲスト紹介

20:30-21:15 「ミャンマーとエコツーリズムの展望」

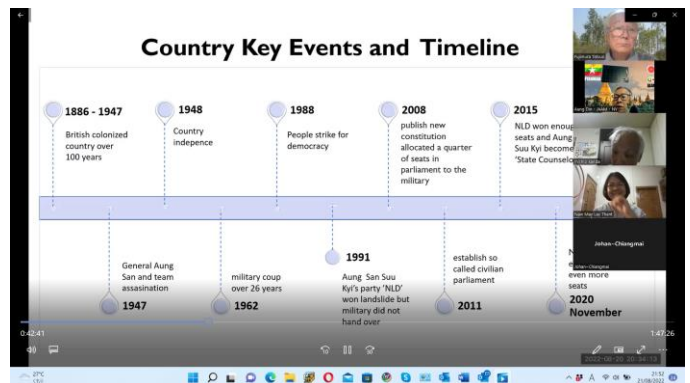
20:15-22:30 質疑応答と討論

22:30 閉会

「ミャンマーの展望」

U Aung Din

- ミャンマーは135の少数民族が居住する大変多様性のある国で、夫々が、言語と方言を持っている。1886年から1947年までは英国の植民地であったが、1920年代から独立運動が盛んになり、日本軍の占領時代を経て、1947年に独立した。



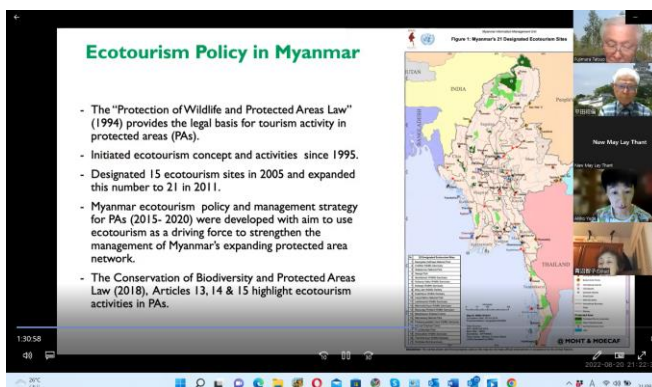
- 独立後に複数党政治が開始されたが、混乱により、1958年から1960年まで国軍による選挙管理内閣が出来た後、1960年から1962年まで政党による政治が行われたが、1962年に軍がクーデター起こして軍政が開始された。1974年には、軍政が「社会主義計画党」による一党政治に変わったが、1988年に経済が行き詰まり民主化運動が起きた。
- 国軍は、民主化運動をクーデターにより弾圧し、軍政が復活した。その後2008年の憲法制定により、2010年の選挙を経て、軍の影響力を維持した民主化が進んだが、2015年の選挙でNLDが勝ち、政権を樹立し、更に、2020年の選挙でNLDが大勝したが、軍がこれを認めず、2021年2月にクーデターを起こした。
- その結果、選挙で選ばれた民主派議員を中心に自らの正当性を主張してCRPHが結成され、その後「国民統一政府（NUG）」と人民防衛隊（PDF）」が結成されて、国軍との防衛戦が各地で起きているが、地方での住民の被害が甚大になっている。
- 国際社会からの民主派支援は弱体で、ASEANの5つの合意事項も実現せず、国連特使も無力であった。国際社会の口だけの支援は十分でなく、もっと実質的な支援と協力が必要だ。このままではこの先いつ紛争が終結するのかは、誰にも分からない。



「エコツーリズム」

Dr. Naw May Lay Thant (Cherry)

- ツーリズムには、「Attractiveness」「Accessibility」「Amenities」が必要であるが、同時に「環境」「社会・文化」「経済」への悪影響を及ぼすことがあることを忘れるべきではない。
- 「エコツーリズム」とは、環境に責任をもって旅行することであり、自然を保護し、影響を少なくし、かつ、土地の人々には社会経済活動に参加して便益がえられるようにしながら、未開の自然を楽しみ感謝することである。
- 「エコツーリズム」には、一次資源(自然資源、文化資源、社会資源)と二次資源(ホテル、交通、情報、サービス、お土産等)があり、Productsとしては、情緒的な経験など tangible なものと intangible なものがある。ミャンマーでは1994年に野生生物と保護地域を守る法律が制定された。
- 1995年以降、これらを実行する具体的なアクション・プランが作成されておらず、また、守るべき規則の類が成立していないため、実態は野放しになっている。今後は、もっと現地のコミュニティーと相談をしながら、内容を多様化して、より魅力的な内容を形成する必要がある。2005年に21のエコツーリズムのサイトが認定されたが、2011年には、21か所に増加した。



- 2018年には、生物多様性の保護と自然保護地区に関する法律が制定されて、その13、14、15条が自然保護区の活動を強調している。
- 2015-2020 渡るエコツーリズムサイト保護のための政策とマネジメントの戦略もできてはいるが、実現が問題である。例えば、以下のような問題がある：
 - ✚ 実施機関の能力の不足
 - ✚ 具体的なアクション計画の未整備
 - ✚ サイトへのアクセス交通や道路の未整備
 - ✚ 周辺の治安状況の不安
 - ✚ 快適な環境の未整備
 - ✚ エコツーリズムの収益の不足等

おいしいミャンマー料理店紹介

ミャンマーに行くことができなくても、ミャンマー料理店に行くことで、ミャンマー文化に触れることはできます。日本人にも親しまれているおすすめのミャンマー料理店をいくつか紹介します。この他にもおいしいお店がたくさんあるので、ミャンマー料理を食べ、日本に住むミャンマーの人たちを応援しましょう！

・ ゴールデンバガン

曙橋駅から徒歩6分の場所にあるこのお店は、日本では珍しいシャン料理を食べることができるお店です。伝統的な麺料理である「シャンカウスエ」をはじめ、納豆などの発酵食品を盛んに使った料理など、シャン州の優しく素朴な味を楽しめます。優しいご夫妻の人柄も魅力です。



(お昼はランチセットがお得!)

・ ビルマレストランルビー

「リトルヤンゴン」といわれるほどに、在日ミャンマー一人が定住し、多くのミャンマーレストランが存在する高田馬場。駅から歩いて10分ほどのところにあるこのお店は、家庭的なビルマ料理が名物の、ミャンマー人やミャンマーを愛する日本人にとっての憩いの場です。お昼は1100円で食べ放題のビュッフェスタイル。麺料理からミャンマー式カレー(ヒン)まで、何でも揃っていてお得です。夜にはヤカインモンテイなど、西部ヤカイン州の伝統料理も食べることができます。店主のチョーチョーソーさんの気さくなトークも聴けるかもしれません。

(写真は、チキンカレーと「パラダー」というミャンマーのパイのセット)

